

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902678		
法人名	社会福祉法人 友和会		
事業所名	グループホーム きらら		
所在地	旭川市東光17条8丁目1-10		
自己評価作成日	平成23年5月6日	評価結果市町村受理日	平成23年6月7日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172902678&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成23年5月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「力を入れている点」
 入居者が思いを気軽に表出できるように、いつも職員は入居者の傍に居ることを心がけている。また、職員は情報を共有し、入居者の思いを実現できるよう努力している。
 「アピールしたい点」
 献立が豊富でとてもおいしい
 「
 が食べたい」という要望で献立を変更したり、季節を感じられる献立を提供したりすることで、食事の時間が楽しみになり、明るい雰囲気になっている。
 訪問者や家族に入居者も職員も明るく若々しいと言われる。
 しわが少なく、入居してから髪も黒くなっている。入居者も職員もとても元気で、施設の中はいつも明るい声が聞こえる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<利用者や家族との絆を大事にする支援>
 介護に一番必要なのは家族の存在であり、家族を中心とした施設運営をポイントにしている。例えば、介護日誌でも判るが、日頃から、家族の来訪者が多く、意見や不安に対する話し合いが日常的に行われている。また、家族アンケートで、いずれの家族も利用者への愛情と思いが職員同士で共有されていることに深く感謝されており、事業所として、利用者へのきめ細かい配慮と家族との連携に独自に取り組んでいる。
<地域における関連事業所等との連携>
 隣接地に関連する事業所の生活支援センターやデイサービスが付設されており、近隣住民や地元の人々とイベントの交流や災害時における協力体制の連携に取り組んでいる。また、近くに保育所があり、散歩しながら子どもたちとの交流を深める支援をしている。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
理念に基づく運営						
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域で生活してきた先輩として職員はいつも感謝の気持ちをもって接するように心がけている。また、地域の一員であることを意識できるように、散歩をしたり、外出をしたりしている。	事業所独自の基本理念「愛、感謝、希望」をつくりあげ、管理者や職員は共有している。施設内には、来訪者に判かりやすいところに理念を掲示している。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	一番身近な地域として、支援ハウスやデイサービスがあり、訪問を受け入れたり、一緒に麻雀をしたりしている。また、散歩に行き保育所の子供や地域の子供と接している。	隣接する支援ハウスやデイサービスを含めた事業所主催のイベントの開催を通じて、地域の人達と日常的な交流に努めている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習を受け入れたり、介護の相談や他の施設の紹介をしたりしている。			
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設以外の人との触れ合いを持つという目的で、今年から支援ハウスの入居者と一緒に外出の計画を立てている。	運営推進会議は、サービス提供の具体的な内容について話し合っている。また、今年度から市職員の参画を得て事業の推進に努めている。	今後は、運営推進会議を年6回を目安に開催し、地域との協力体制のもとに意見交換をさらに進めていくことを期待します。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の職員が運営推進委員になっており、意見をもらっている。	市担当者や包括支援センターとは、日常業務を通じて情報交換を行い、連携を深めるように努めている。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束委員会を開き、拘束が入居者に及ぼす悪影響を理解し拘束を行わないケアに努めている。	身体拘束廃止について管理者及び職員は共通認識が持てるように自己評価を実施し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体にもたらす虐待だけでなく、精神的な虐待にも目を向け、自分達の介護を常に見直し職員の間人間関係を健全に保つよう努力している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当施設の入居者は子供が身元保証人になっているので、現在、特に必要性がなく行っていない。			
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	身元保証人や家族に説明し、その都度、質問や疑問を聞き答えている。			
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の時は、家族に声掛けをし意見や要望を聞き、職員に伝えている。必要であれば話し合いをもっている。	家族や来訪者等が管理者、職員並びに外部者へ意見や苦情等を言い表せるように苦情等の受付箱を設置し、運営に反映できるように取り組んでいる。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回カンファレンスをもっているが、それ以外にも、朝の申し送りの時間を活用して意見交換を日々行っている。	毎月のミーティング等を通じて職員の意見や要望、提案を聞くよう機会を設けている。また、朝のミーティングの時間を活用して意見交換をして、運営に反映できるように努めている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回給料の見直しを行っている。週休は本人の希望を最大限取り入れるようにしている。当施設は主婦が多いので、仕事と家庭を両立できるように配慮している。			
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	仕事上生じた疑問や、ケアの質の向上に関わる症例について話し合いをもっている。			
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケア研究会に参加し意見交換や、勉強会を行っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の言動に注意し何を望んで、何をしたいのかを把握できるようにする。また、申し送りを徹底し、情報を共有できるようにしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の申し込みをする時点で、家族の介護に対する要望を聞くようにしている。また、いつでも気付いたことを、その都度、話せるように働きかけている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを行うことで、思いや課題を知り介護を行っている。職員全員が声かけを心掛けている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として、相談をしたり、アドバイスをもらったりしている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	介護に一番必要なのは、家族の存在であることを職員が理解し、常に家族と連絡を密にし家族の要望を聞いている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友達・家族の面会を促している。また、家族の希望があれば、宿泊も受け入れ、家族の食事を提供している。	家族や友人、知人が気軽に来訪できる環境づくりに努め、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者1人ひとりの人間関係を把握して、必要な時は関係が悪くならないように職員が介入している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の施設を紹介したり、転居した施設と連絡をとったりしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを大切に、職員は入居者がどのような希望をもって生活しているか、いつも観察するように心かけている。また、面会の度に本人の思いを家族から確認している。	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、本人の思いを家族から確認し、職員間でその情報が共有されている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から情報を収集している。(基本情報として把握している)		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居時の介護計画を立てる時に情報収集をしているが、その後はモニタリングや評価で行っている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	情報を職員や家族から集め、さらに、本人の希望を聞きながら計画を立てている。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族の意見や思いを反映するようにしている。また、カンファレンス、モニタリングを通じて介護計画に職員の意見を反映している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は日々の変化が分かるように、処置その他を前にし、介護記録は後の項にしている。朝の申し送りで必ず簡単なカンファレンスを行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度、話し合いをもって対応するようにしているが、集団生活の中で変化する、入居者の心に十分対応できていないことがある。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	デイサービスで麻雀を行ったり、支援ハウスを訪問して話をしたりしている。散歩の時は公園で保育園児と接している。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、本人や家族・施設の職員の要望を聞き入れ、その人に合った医療を提供している。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。また、医師の往診や看護師との連携で適切な医療を受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師なので常に情報を共有している。			
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は認知機能や身体機能の低下を予防のため早期に退院出来るように、病院に働き掛けている。また、日常的には入居者の状態の変化を報告し指示を仰いでいる。			
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	普段からの本人の希望と、家族の希望を聞き対応しているが、家族の協力が大切であることを家族に十分説明し、納得と協力が得られるようにしている。また、状態の変化に応じて、方針を変えていくことができることも共通理解としている。	本人や家族の意向を踏まえ、医師、看護師、職員が連携を取り、事業所ができることを十分に説明しながら方針を職員間で共有している。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には行っていないが、入居者に必要性が生じた時はその都度行っている。			
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練や避難路の確認を随時行っている。(入居者の身体機能や認知機能を考慮して)避難時は支援ハウスと連携がとれるようになっている。	年2回避難訓練を実施し、避難経路や設備の定期点検も行われている。また、避難時は隣接の支援ハウスとの連携がとれるようになっている。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者が呼んで欲しい名前前で呼んでいる。個人的なお話は居室や、誰のいない時に居間のソファで一緒に座って聞いている。	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないようにミーティングや自己評価の実施で職員間で周知している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が行う行為は、入居者に確認してから行っており、入居者が同意しない時は行っていない。			
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設の日課はあるが、参加の有無については入居者の自由であることを説明している。			
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	それぞれ、自分の意志で着やすい衣類や気に入った衣類を選んで着ている。化粧も自由に行っている。職員はよく化粧や衣類を賞賛している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には本人の好きな献立を出している。日々の献立はあるが、季節に合わせて変更したり、会話の中で「食べたい」と言ったものは献立を変更して作ったりしている。	食事が楽しみになるように利用者の意向に合わせたメニューが作られており、利用者が出来る範囲内で職員と一緒に準備や後片付けなどを行っている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養については、本人の健康状態や体重の増減で判断している。水分の必要性を説明し積極的に取るように働き掛けている。10時・3時の水分摂取については、11種類の中から選ぶことができるようにしている。			
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	意志がはっきりしており、毎食後の洗浄を希望しない入居者は食後の水分摂取を促している。介助で毎食後、義歯を外して洗浄している入居者もいる。大体は朝・夕のみ、自分又は職員が多い。			
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の行動を見て、誘導したり時間で誘導したりする入居者が1人、他は1人ひとりが感じる尿意で介助している。(留置カテーテル1人)	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるように時間を見計らって自立への支援している。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や歩行を奨励している。また、水分摂取を促したり、野菜や海草をふんだんにメニューに取り入れている。			
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	いつでも入れることを説明しているが、あまり希望はなく、入浴日を自分の中で決めてしまっている。但し、失禁で汚れた場合はすぐに入浴やシャワーで対応している。	一応、入浴日を設定しているが、いつでも入れるよう、一人ひとりの希望や体調、生活習慣に応じて支援している。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居間のソファーに自由に横になれるようにしている。状況に応じては、部屋に誘導して臥床できるようにしている。			
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	十分ではないが理解できている。特に、降圧剤・糖尿病の薬・安定剤の投与は注意を払うように心かけている。			
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとりの好みや力に応じた楽しみや、嗜好品を提供するためには、個々の対応が望まれる。個々に対応すること、集団で対応することを分けて行う必要を感じて、取り組んでいる。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>買い物や散歩を行っている。個人的な場所については家族の協力を受けている。</p>	<p>一人ひとりの希望にそって、散歩や買い物等戸外に出かけられるように支援している。また、個人的に希望する場所については家族の協力を得ている。</p>		
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>所持金は自由にしており、買い物や散髪など本人の所持金から出すか、預かり金から出すかは自由にしている。</p>			
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>希望があればいつでも対応している。電話は自由に使用することが出来る。</p>			
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>間に合わず、トイレを汚す入居者がいるのでその人が使用した後は必ず確認しきれいにしている。居間を季節に合った飾り付けにしたり、洗面所に花を飾ったりしている。また、ボランティアが花を活けに来ている。</p>	<p>居間全体が広々と明るく、リビングや廊下の壁には、行事参加の写真の掲示やボランティアの人による花活け、季節毎の飾りつけが行われ、利用者がゆっくりと落ち着ける家庭的な雰囲気になっている。</p>		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>座る場所は入居者の希望を聞いて、気の合った人同士が座ることができるようにしている。状況を見ながら、必要と判断した時は入居者の希望を確認しながら席替えをすることもある。</p>			
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室の使用の仕方は家族と入居者に任せている。仏壇やタンスなど馴染みの物を置いている。</p>	<p>居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れた家具や寝具、家族の写真等が持ち込まれ、本人が居心地良く過ごせるような工夫をしている。</p>		
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>本人の希望に合わせて配置している。職員が見て使い辛そうでも、本人の癖や習慣があるので、それを大切にしている。</p>			

目標達成計画

事業所名 グループホーム きらら

作成日: 平成 23年 6月 3日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	28・36	集団の中で生活することによるストレスや精神や身体に与える影響を把握できずに、入居者・職員共に戸惑うことがある。	多様な入居者の心や体の変化に対応できる	1心や体の変化が生じたきっかけを知る。 2声かけが片寄らないようにする。 3その人の力に合ったレクを考える。 4レクの種類を増やす。 5個別的にレクや散歩の対応をする。	6ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。